



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年7月27日

上場会社名 綿半ホールディングス株式会社 上場取引所 東
コード番号 3199 URL <https://watahan.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野原 勇
問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役 (氏名) 有賀 博 TEL 03-3341-2766
四半期報告書提出予定日 2023年8月10日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	29,762	△3.9	240	△51.6	392	△39.4	228	△31.2
2023年3月期第1四半期	30,969	19.0	497	47.9	647	52.1	332	39.6

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 38百万円 (△89.6%) 2023年3月期第1四半期 368百万円 (73.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	11.48	—
2023年3月期第1四半期	16.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	80,969	20,852	25.8	1,048.15
2023年3月期	84,202	21,251	25.2	1,068.23

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 20,852百万円 2023年3月期 21,251百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	22.00	22.00
2024年3月期	—	—	—	—	—
2024年3月期 (予想)	—	0.00	—	23.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	65,763	2.3	895	△20.6	1,040	△26.9	630	△10.5	31.67
通期	138,000	2.8	2,724	13.4	3,120	2.0	1,850	11.9	92.99

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（四半期累計）

2024年3月期1Q	19,894,434株	2023年3月期	19,894,434株
2024年3月期1Q	296株	2023年3月期	296株
2024年3月期1Q	19,894,138株	2023年3月期1Q	19,857,130株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症対策の緩和により経済活動が持ち直している一方で、ロシア・ウクライナ情勢の長期化を始めとする、不安定な世界情勢を背景とした資源価格の高騰による物価上昇が続いており、依然として先行きが不透明な状況であります。

綿半グループが関係する事業環境のうち、小売事業では、原材料価格の高騰を受けたコストプッシュ型インフレの進行による消費者の節約志向の高まりや、業態を超えた競争の激化が続いております。

建設事業では、国内の経済活動の持ち直しにより、民間建設投資に拡大の動きが見られた結果、市況は堅調に推移いたしました。しかしながら、新築戸建住宅着工戸数が減少傾向にあるといった点や、建築資材の価格高騰の状況が続いております。

貿易事業では、原油価格は落ち着きを見せましたが、前年から続く円安の影響や、医薬品市場における毎年の薬価改定による市場の抑制リスクが存在しており、依然として不安定な事業環境となっております。

このような状況下におきまして、経営理念である「合才の精神」に基づき、持株会社である当社をグループの中核として、各グループ会社が最大12%の賃上げをはじめとする人的投資に積極的に取り組むほか、事業価値の向上、新規事業領域の創出に努め、時代の流れに適合した事業ポートフォリオの構築に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における売上高は297億62百万円（前年同四半期比3.9%減）、営業利益は2億40百万円（同51.6%減）、経常利益は3億92百万円（同39.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2億28百万円（同31.2%減）となりましたが、計画に対しては順調に推移しております。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

(小売事業)

小売事業では、スーパーセンター、ホームセンター、食品スーパー、ドラッグストア、インターネット通販等多種多様な業態を展開しており、「店舗改装・新業態の開発を継続して推進」「流通網の拡大」「オリジナル商品の開発・SPA化の加速」を重点施策として取り組んでまいりました。

「店舗改装・新業態の開発を継続して推進」では、綿半ドラッグの運営する既存のドラッグストアを改装して、『ウェルネスライフガーデン』にリニューアルオープンいたしました。『ウェルネスライフガーデン』は、人間だけでなく共に暮らすペットの生活や健康を豊かにすることを目的とした、動物病院やペットサロンなどを併設した店舗で、綿半グループとしては初の業態です。また、前期にオープンした綿半スーパーセンター権堂店内に、お買物をしている間に処方箋薬の受取が可能な調剤薬局を新たに開設いたしました。今後もこのようなお客さまのライフスタイルに寄り添った事業を展開してまいります。

「流通網の拡大」では、世界各地からの食料品の直接仕入を開始いたしました。直接仕入を行うことで、従来より低価格でより良い商品をお客さまにお届けすることが可能になりました。今後もお客さまに商品を安定供給できる体制をより強固なものにすべく、サプライチェーンの構築に取り組んでまいります。加えて、前期に引き続き、生鮮食品の鮮度向上を目的とした、産地からお客さまにお届けするまで低温を維持し続けるコールドチェーンの構築にも継続的に取り組んでおります。

「オリジナル商品の開発・SPA化の加速」では、お客さまの多様なニーズにお応えすべく、食料品や日用品など、様々な商品開発を行っております。グループシナジーを活かした取組みとして、貿易事業で輸入している天然原料を用いた食料品の開発や、新たにグループ入りした小諸動物病院と共同で、オリジナルのペット用品の開発等に取り組んでおります。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高については199億56百万円（同3.9%増）、セグメント利益は3億58百万円（同29.2%減）となりました。

(建設事業)

建設事業では、木造建築、鐵構、屋根外装改修、自走式立体駐車場等を展開しており、「木材の加工・流通網の構築」「木を使った商品開発の推進」「鉄骨分野の海外ネットワークの構築」を重点施策として取り組んでまいりました。

「木材の加工・流通網の構築」では、前期に引き続き、綿半林業が有する原木の仕入からプレカットまで行う製造機能を活かし、長野県産の木材の有効活用による地域経済の活性化に注力しております。

「木を使った商品開発の推進」では、柱のない開放的な空間を短工期で実現した、木造システム建築『PREST WOOD』の販売を5月に開始したほか、6月には介護施設や保育施設等の非住宅木造建築の販売を開始するなど、木を使った商品開発を推進しております。

「鉄骨分野の海外ネットワークの構築」では、近年の鉄骨需要の拡大と物件大型化に対応するため、ミャンマー及び大連のCADセンターで作図DXによる作業効率化を行うなど、海外ネットワークの構築に努めてまいりました。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は79億54百万円（同24.9%減）、セグメント損失は2億18百万円（前年同四半期は1億84百万円のセグメント利益）と、第1四半期に大きく伸長した前年同四半期対比では減収減益となりましたが、足元では受注・売上ともに計画通りに推移しております。

（貿易事業）

貿易事業では、世界20カ国以上から天然由来の医薬品・化成品原料の輸入販売、不妊治療薬の原薬製造等を行っており、「食品分野への進出」「肥料・飼料分野の拡大」を重点施策として取り組んでまいりました。

メキシコから輸入しているウチワサボテンの果実を使用した炭酸飲料を、綿半スーパーセンターのカフェコーナーで販売したほか、株式会社エヌ・ピー・エル社と、キラヤサポニン配合飼料の鳥インフルエンザ感染予防効果の可能性を検討する共同研究を開始いたしました。

そのほか、海外原料の安定供給への取り組みや不妊治療薬の原薬製造の安定化・高品質化に向けた精製率を高める方法の研究開発を進めております。

当第1四半期連結累計期間における業績は、売上高は16億48百万円（前年同四半期比50.1%増）、セグメント利益は2億91百万円（同567.2%増）となりました。

（その他）

「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。売上高は2億3百万円（同174.0%増）、セグメント利益は49百万円（同35.4%増）となりました。

（2）財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は前連結会計年度末に比べ32億32百万円減少し、809億69百万円（前期末比3.8%減）となりました。

流動資産は、前連結会計年度末に比べ29億81百万円減少し、446億39百万円（同6.3%減）となりました。主な要因は、現金及び預金が22億82百万円増加した一方、受取手形、売掛金及び契約資産が55億93百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ2億51百万円減少し、363億29百万円（同0.7%減）となりました。主な要因は、投資その他の資産が1億58百万円、のれんが1億1百万円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の負債の合計は、前連結会計年度末に比べ28億33百万円減少し、601億17百万円（同4.5%減）となりました。主な要因は、短期借入金が10億53百万円、支払手形及び買掛金が13億3百万円減少したこと等によるものであります。

当第1四半期連結会計期間末の純資産の合計は、前連結会計年度末に比べ3億99百万円減少し、208億52百万円（同1.9%減）となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益により2億28百万円増加した一方、剰余金の配当により4億37百万円減少したこと等によるものであります。

この結果、自己資本比率は25.8%（前連結会計年度末は25.2%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいておりますが、実際の数値は今後様々な要因により、予想数値と異なる可能性があります。なお、2023年5月12日の「2023年3月期 決算短信」で公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,088	5,371
受取手形、売掛金及び契約資産	24,431	18,837
商品及び製品	12,913	13,042
仕掛品	294	746
原材料及び貯蔵品	2,983	3,445
その他	3,924	3,209
貸倒引当金	△14	△14
流動資産合計	47,621	44,639
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	14,583	14,447
土地	11,366	11,467
その他（純額）	2,347	2,420
有形固定資産合計	28,297	28,336
無形固定資産		
のれん	1,310	1,208
その他	593	564
無形固定資産合計	1,904	1,772
投資その他の資産		
その他	6,501	6,345
貸倒引当金	△122	△124
投資その他の資産合計	6,379	6,220
固定資産合計	36,581	36,329
資産合計	84,202	80,969

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	18,760	17,457
短期借入金	15,504	14,450
未払法人税等	798	180
賞与引当金	889	1,106
工事損失引当金	21	23
完成工事補償引当金	63	60
その他	6,677	7,166
流動負債合計	42,713	40,444
固定負債		
長期借入金	14,313	13,820
退職給付に係る負債	2,547	2,564
資産除去債務	1,929	1,939
その他	1,445	1,348
固定負債合計	20,236	19,672
負債合計	62,950	60,117
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,051	1,051
資本剰余金	656	656
利益剰余金	18,535	18,326
自己株式	△0	△0
株主資本合計	20,242	20,033
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	980	780
繰延ヘッジ損益	△7	3
退職給付に係る調整累計額	36	35
その他の包括利益累計額合計	1,008	818
純資産合計	21,251	20,852
負債純資産合計	84,202	80,969

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	30,969	29,762
売上原価	24,452	23,293
売上総利益	6,517	6,469
販売費及び一般管理費	6,019	6,228
営業利益	497	240
営業外収益		
受取利息	2	2
受取配当金	10	13
受取補償金	22	18
出資金運用益	50	73
その他	83	88
営業外収益合計	170	196
営業外費用		
支払利息	15	19
その他	5	25
営業外費用合計	20	45
経常利益	647	392
特別利益		
固定資産売却益	3	—
特別利益合計	3	—
特別損失		
固定資産除売却損	4	3
減損損失	43	—
投資有価証券評価損	11	—
特別損失合計	59	3
税金等調整前四半期純利益	591	388
法人税、住民税及び事業税	460	204
法人税等調整額	△201	△44
法人税等合計	258	159
四半期純利益	332	228
親会社株主に帰属する四半期純利益	332	228

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	332	228
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	37	△200
繰延ヘッジ損益	△0	11
退職給付に係る調整額	△0	△1
その他の包括利益合計	36	△190
四半期包括利益	368	38
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	368	38

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	19,176	10,572	1,098	30,847	9	30,856
その他の収益	32	16	—	48	64	112
外部顧客への売上高	19,208	10,588	1,098	30,895	74	30,969
セグメント間の内部売上高又は振替高	19	0	7	26	—	26
計	19,227	10,589	1,105	30,922	74	30,996
セグメント利益	505	184	43	733	36	770

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容

(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	733
「その他」の区分の利益	36
セグメント間取引消去	5
全社費用(注)	△278
四半期連結損益計算書の営業利益	497

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2023年4月1日 至 2023年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：百万円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	小売事業	建設事業	貿易事業	計		
売上高						
顧客との契約から生じる収益	19,922	7,933	1,648	29,503	60	29,564
その他の収益	34	21	—	55	142	198
外部顧客への売上高	19,956	7,954	1,648	29,559	203	29,762
セグメント間の内部売上高又は振替高	47	1	5	55	16	71
計	20,004	7,956	1,654	29,614	219	29,834
セグメント利益又は損失(△)	358	△218	291	431	49	480

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	431
「その他」の区分の利益	49
セグメント間取引消去	2
全社費用(注)	△242
四半期連結損益計算書の営業利益	240

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費となっております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。